



Supported by 日本寄付財団

ご提案資料



パラリンアートは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

パラリンアートカップとは？

障がい者がアートで夢を叶える世界を作る。
パラリンアートの想いを“スポーツの力”で実現させるアートコンテストです。



すべてのスポーツを対象に開催します！

障がい者アートの豊かな表現を多くの人々に知ってもらうことで、
障がい者の社会的自立をサポートする目的でスタートしました。



多数メディアへの掲載・パブリシティの展開



パラリンアートカップは今回で

7回目の開催を迎えます！

7回目となる今回から、

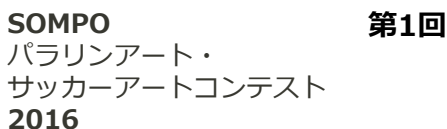
一般財団法人 日本寄付財団様に

ご支援をいただいております！

障がい者アートの次世代スターをめざそう！

サッカー バスケ ラグビー 野球 オリンピック パラリンピック 現役のトップ選手が選ぶ唯一のコンテスト

第7回



損害保険ジャパン株式会社様に、
トップスポンサーとして5年連続
開催いただいた“信頼”と“実績”ある大会です。

パラリンアートカップ2022

Supported by 日本寄付財団

【作品募集テーマ】

SUPER START

<募集要項 / テーマ>

出発。起飛。始動。始める。一歩踏み出す。

あなたの作品で、圧倒的なスタートを切って動き出すエネルギー。

スポーツにおいても研ぎ澄まされた集中力を爆発させるホイスル。

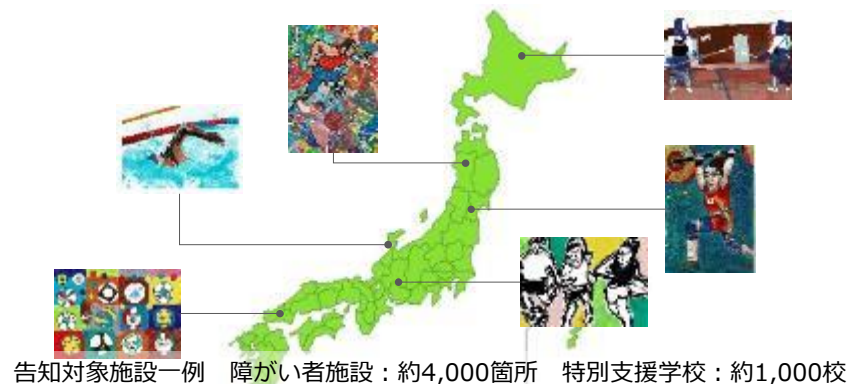
まさに今生み出される、全てを置き去りにするスーパー・スタートを

表現して下さい。



「SUPER START」をテーマに 全国からアート作品を募集します。

① 日本全国の関連施設や、 登録アーティストから作品を募集！



② 受賞作品選定

受賞作品
選定イメージ



オンライン投票が可能！
スマホ・PC対応

過去の受賞一覧

- ・グランプリ
- ・準グランプリ
- ・スポンサー賞
- ・審査員特別賞
- ・日本プロサッカー選手会賞
- ・日本バスケットボール選手会賞
- ・日本ラグビーフットボール選手会賞
- ・日本プロ野球選手会賞
- ・ブラインドサッカー賞

- ・高橋陽一賞
- ・北澤豪賞
- ・しずちゃん賞
- ・若月佑美賞
- ・野口みずき賞
- ・入選

③ 受賞作品決定



受賞者の表彰式開催



歴代グランプリ(最優秀作品賞)

2016 グランプリ(最優秀作品賞)



未来のサッカースタジアム
飯山 太陽

2017 グランプリ(最優秀作品賞)



みんなでなかよくサッカーしよう
カミジョウミカ

2018 グランプリ(最優秀作品賞)



栄光のまなざし
飯島 純子 [画号 舞櫻]

2019 グランプリ(最優秀作品賞)



不屈
山内 崇敬

2020 グランプリ(最優秀作品賞)



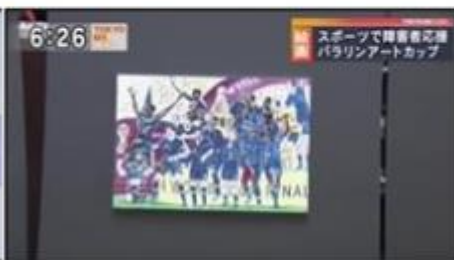
優勝
久野浩太郎

2021 グランプリ(最優秀作品賞)



平和を求めて
まりも

メディア掲載過去実績(一部) 2016年～2021年



タイトル

パラリンアートカップ2022 Supported by 日本寄付財団

実施日時

- 開催(予定) : 2022年 11月
- 作品募集(予定) : 2022年 11月 ~ 12月
- 審査(予定) : 2023年 1月 ~ 2023年 2月
- 表彰式(予定) : 2023年 3月末もしくは、4月初旬
※国内状況、PR状況鑑みて確定

会 場

表彰式(懇親会、作品展示) : 都内近郊会場

実施内容

作品募集 / 審査 / 表彰式 / オンラインミュージアム (2021年実績より)

主 催

一般社団法人障がい者自立推進機構

協力予定

日本プロサッカー選手会 / 日本バスケットボール協会 / 日本ラグビーフットボール協会
日本プロ野球選手会 / 全国特別支援学校長会 (2021年実績より)

後援予定

厚労省 / 観光庁 / 文化庁 / 総務省 (2021年実績より)

メディアパートナー

朝日新聞社

ご協賛メリット (協賛プラン)

より多くの方にパラリンアートカップをご支援いただけるよう、各種協賛プランをご用意致しました。



パラリンアートを応援しています

プラチナ

¥3,300,000 (税込)



パラリンアートを応援しています

ゴールド

¥1,100,000 (税込)



<協賛項目>



・パラリンアートのロゴデータのご使用权



・大会オフィシャルHP、記念冊子への貴社ロゴ掲載



・「パラリンアート賞」**“受賞作品1点”の高画質データの提供**（年間用途無制限）



・表彰式会場でのサンプリングや会社案内・チラシ等の配布（受付にて一括）



・表彰式へのご招待、著名人ゲストとの記念撮影（オフィシャルカメラにて全体集合写真 含む）



・**“スポンサー賞の設置”**と表彰式にてプレゼンテーターとしてご登壇、発表（ご挨拶、副賞 含む）



・スポンサー賞**“受賞者”の表彰式ご招待**、または受賞メッセージの受領 ※アーティストによっては対応不可な場合がございます。予めご容赦ください。



・大会表彰式に掲示するバックパネルへの**“貴社ロゴ”掲載**（特別協賛社との掲載数の調整あり）



・スポンサー賞**“受賞作品”**を原画額装して授与等

パラリンアートカップ 主なご協賛メリット

御社名「スポンサー様」の大々的な露出

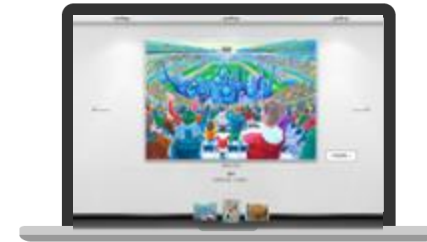
露出先：表彰式、オンラインミュージアム、各種告知物(リリース、公式HP、募集チラシ)

表彰式

(会場調整中)
三密を最大限配慮できる会場



オンラインミュージアム



スポンサー様 特典

スポンサー賞
原画データ(EPS・JPG)納品

※年間用途無制限



スポンサー賞授与に
ご登壇いただきます。



受賞作品の“原画”を
額装して贈呈



協賛メリット

大会HP、記念冊子への貴社ロゴ掲載



表彰式会場でのサンプリング・チラシ等配布

貴社製品やチラシ・会社案内等を受付にてご来賓、来場メディアに配布いたします(受付にて任意で一括お渡し)。



パラリンアート主催大会でのサンプル配布の様子

パラリンアート賞受賞作品1点の高画質データ提供

パラリンアート賞受賞作品の中から1点お選びいただき、高画質データを提供いたします。1年間用途無制限でご活用いただけます。



パラリンアートカップ受賞作品

表彰式へご出席、著名人ゲストとの記念撮影(予)

表彰式へのご出席が可能です。著名人ゲスト等との記念撮影もご用意いたします。記念撮影は閉会后、囲み取材後にオフィシャルにて、集合写真撮影を致します。



協賛メリット

スポンサー賞の設置&発表

貴社名や商品名を冠する賞を設定、受賞作品は高画質データで納品いたします。
“賞タイトル”および受賞作品に、表彰式での貴社ご登壇、発表を実施し公開します。
また、会場展示や記念冊子等にて紹介いたします。



プレゼンターとして登壇（任意）、ご挨拶と受賞作品発表。



表彰式にはPR会社ご協力のもと、メディア誘致を行います。

スポンサー賞「受賞者」を表彰式へご招待（またはメッセージ）

スポンサーを受賞された“受賞者(アーティスト)”を表彰式会場へお招きし、表彰状・副賞等を壇上にて表彰をおこなっていただきます。ご来場いただけない方は“メッセージ”でのご参加を予定しております。



※アーティストによって対応が難しい場合がございます。

協賛メリット

「スポンサー様」へ大会審査員としてご参加、
ならびに表彰式でのご登壇をお願いいたします。



障がい者アートの普及と発展のため、
審査としてのご参加・ご登壇をご検討頂けますと幸いです。

協賛メリット

表彰式会場内で使用する**バックパネル**に企業ロゴもしくは商品ロゴを掲出いたします。

バックパネルイメージ



バックパネル

メディアへの露出イメージ



ディスプレイでの活用イメージ



【ご注意事項】

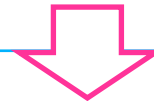
- ・サイズ、掲出位置については事務局に一任いただきます。
- ・協賛社数「2～3社」想定。

※会場により、“ディスプレイ”にて表示する場合がございます。

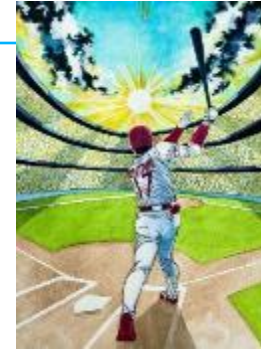


受賞作品(イメージ)

御社資料等に受賞作品を
“年間用途無制限”活用可能



団体概要、パンフレット、チラシ、Webデザイン、
各種ノベルティグッズ、ポスター等の販促品、等



受賞作品(イメージ)



Webサイト



社内報/会社概要/株主通信



カタログ表紙



ノベルティアイテム



額装展示



クオカード



カレンダー



ポストカード

理事紹介

代表理事	創業者理事 松永 昭弘（現 株式会社パラリンアート 代表取締役）
代表理事	中井 亮
代表理事	並木 宏仁
理事	セイン・カミュ（タレント）
理事	阪口 富左雄（現 株式会社ONETOPJAPAN 代表取締役）
理事	村上 美文（一般社団法人BMS 代表理事）
理事	中山 秀征（タレント）
理事	坂入 孝治（ラブキャリアグループ 代表取締役相談役）
理事	中村 淳（パーソルサンクス株式会社 代表取締役）
理事	神成 麻衣
理事	村山 朝和
理事	高森 雄一（株式会社グリーンプラザーズ・ジャパン 代表取締役）
理事	吉田 竜真（株式会社AMATUHI 代表取締役）
監事	古賀 幸雄
名誉顧問	野田 聖子（衆議院議員）
名誉顧問	コシノジュンコ（デザイナー）
特別顧問	碓井 誠（現 株式会社オピニオン 代表取締役 京都大学 経営管理大学院 特命教授）
特別顧問	中村 幸雄（元 損保ジャパン株式会社 代表取締役専務執行役員）
顧問	岩本 信一（一般財団法人chikyujin 創業者理事）

パラリンアートカップ 参加者・関係者からの声

受賞者からの声

本コンテストに対して、受賞者からは個展や絵画教室のきっかけとなった、さらに仕事の依頼へ繋がった。
特別支援学校やご家族からは、評価される場として本人の大きな刺激、
やりがい生き甲斐につながる、経済的自立へ期待している。
また、審査員からも、もっとこの活動を広げていきたい、知って欲しいなどの声援をいただいています。



第1回グランプリ 飯山太陽さん（栃木県）

精緻な画法でグランプリを受賞した後、高校を卒業してアートカフェに就職。働きながらの創作活動を初の個展につなげた。カフェのポスター、メニューなどのほかにも、県内外から仕事のオファーも増えている。



第2回グランプリ カミジョウミカさん（長野県）

長野県内の美術館に常設コーナーを持つほか、受賞を機にポストカード、ラッピングカー、音楽フェスのポスター、横浜駅構内のカフェの壁画など仕事は多岐にわたる。独特の画法を磨き、「プロ」として創作の幅を広げている。



第4回グランプリ 山内崇敬さん（山口県）

初めてのコンテスト応募でのグランプリ受賞、社会とのかかわりに自信をもたらした。自らが絵に救われた体験に基づく絵画教室を開いた。「世界的な作家」という大きな目標の第一歩と位置づけている。



損害保険ジャパン賞（都道府県賞） さくらさん（神奈川県）

サッカーの熱気を描いた作品で2018年の神奈川県賞を受賞。都内の企業で働くかたわら、車イスの図柄の依頼を受けるなど、創作活動を続けている。



サッカー選手会賞 如月紅さん（和歌山県）

セルジオ越後さんに「ピカソのよう」と絶賛された作品で2019年のサッカー部門賞を受賞。発達障害で職場を離れたが、自宅でさまざまな画法を学び、作家登録を仕事につなげようとしている。

関係者からの声

東京都立八王子東特別支援学校長



パラリンアートカップで評価されることは、**子供たちにとっても大きな刺激になります**。特別支援学校ではあまり技術指導をしていませんでしたが、レベルの高い大会なので**教員も意識して指導するようになり、的確にアドバイスするようになりました**。本校の子供たちの作品もここ数年で大きく変わったように感じます。子供たちの作品が上位に入れば、アーティストへの登竜門となり、**展示や商品に使われると収入にもつながる可能性があるということ**で、**進路開拓の一つとして、関心を示す校長も少なくありません**。

第一回SOMPOサッカーアートコンテスト受賞者（ご本人/ご家族）



このコンテストでパラリンピック競技に興味を持ちました。自分のように苦手な部分があってもスポーツで活躍する人がいて、**すごかったいいと思いました**。このコンテストで入賞し、初めてみんなから褒められる経験をしました。**大好きな絵を描くことで、自分もスポーツの応援ができるんだと嬉しかった**です。（本人談）
アートは息子にとりまして、気持ちを伝えることのできる大切なスキルです。**サポートされるばかりの生活でしたが、自分でも人をサポートすることができる、それに気づかせていただいたきっかけが「SOMPOパラリンアートカップ」**でした。（家族談）

第二回SOMPOパラリンアートカップ受賞者 パラリンアートアーティスト代理



本人は言葉で自分の思いが相手に伝わらずもどかしい思いをすることが多いです。作品に対して周りから**賞賛や励ましの声をもらい、言葉で表現しなくても自分の思いを表現できたと感じている**ようです。様々な会社からデザインに採用されるとなおさら嬉しいのかもしれません。パラリンアートを通じて彼の中にこのような思いが芽生えてきているのではないかと考えています。

SOMPOパラリンアートカップしずちゃん賞受賞者（ご本人/ご家族）



しずちゃん賞を頂き、とても嬉しかったことを今でも鮮明に覚えています。兼ねてより、**障害者の絵は海外ではすごく評価されていて、その裾野も広いと聞いていたのですが、日本では？**と思っていたところ、パラリンアートのことを知りました。**日本でも表現し、それを評価してくれる場があるのはありがたいです**。高校入学への自信にもなりました。賞を頂いたことなどは大変貴重な経験となり、頑張る力になっているように思います。

審査員からの声



サッカー選手会

神戸、浦和などでＪリーガー経験のある相馬崇人さんがパラリンアートの活動に共鳴して選手会として第１回から選考とＰＲに協力。現在はすべてのＪクラブの現役選手が作品選考にかかわっている。



ラグビー選手会

ワールドカップ日本開催の年にコンテストに加わり、社会貢献活動の一つの足がかりとして応援している。2019年には神奈川県の特設支援学校でラグビークリニックを開催、参加した児童はラグビー体験を応募作につなげて、数十点の作品が寄せられた。



北澤豪さん（サッカー解説者）

パラリンアートカップは『挑戦の舞台』。すべてのことのチャレンジのきっかけとして障害者のみなさんの機会になっていると思っています。



丸山桂里奈さん（タレント）

最初はゲストで、そして昨年からは審査員の立場で絵を見させていただいていますが、身が引き締まる思いをいつも感じています。



しずちゃん（芸人、絵本作家）

趣味であった絵画がパラリンアートカップの審査を通して、もっと作品を見てみたい、もっと絵を描いてみたいという意識になりました。この活動をもっと知って欲しいです。



若月佑美さん（女優）

「作品を審査する際の感動は何にも代えがたく、着想や視点など毎年新たな発見があります。私自身デザイン画ですが、その創作活動にも大変刺激を頂いております」（談）

受賞者以外の参加者からの声

過去、応募者の中で受賞していない方や保護者から、
障がい者自立推進機構へ主に以下のような声が集まっています。



このような大会を開いていただけるのは、嬉しい。



このような大会は美術部の子どもたちの励みになっています。



同じ障害を持つ方が、こんなにも上手だと頑張りたいと思う。



無料で参加できるのはありがたい。



スポーツのパラリンピックに参加できないが、このような大会に子供たちのそれぞれのペースで参加できるのはありがたい。



一人の子が応募するとなったら、周りの子も応募したいとなってくれているのを見ると大会の有難さを感じます。



パラリンアートは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。